

# UNI-PEX

## 取扱説明書

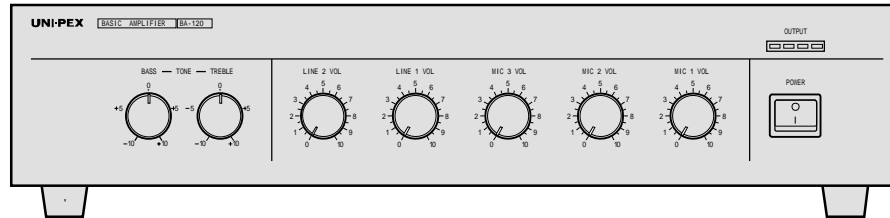
# 卓上形ベーシックアンプ

定格出力 120W

# BA-120

定格出力 60W

# BA-60



このたびは、卓上形ベーシックアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
ご使用前に、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。この取扱説明書はお読みになりましたら大切に保管し、後日わからないことがあれば再びご覧ください。このアンプは卓上形ですので、ラックにマウントしてご使用にならないでください。

### 目次

安全に正しくお使いいただくために	1
安全上のご注意	2~3
各部の名称と説明(前面)	4
オートマチックフェーダ回路について	4
各部の名称と説明(後面)	5
端子カバーのはずしかた	5
DC電源でご使用の場合	5
スピーカーの接続方法	6
ノイズ対策について	7
点検方法	7
定格	8
外観寸法図	8

## 安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

### 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

#### 絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

## 安全上のご注意 〈必ずお守りください〉

ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになったあとは、必ず保存してください。

### ⚠ 警告

#### 異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



プラグをコンセントから抜く

#### 分解 / 改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



#### 異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



#### 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐ、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。



#### 電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）販売店などに交換をご依頼ください。



#### 表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



#### 雷が鳴り出したら、スピーカー線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。



#### 壁から5cm以上の間隔をおいて設置する

内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。



## ⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



電源コードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。



お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。



濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。



移動するときは、コード類を傷つけない

火災、感電の原因となることがあります。移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードをはずしてからおこなってください。



プラグをコンセントから抜く

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



テレビ、オーディオ機器、ビデオ機器、スピーカなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。又接続が終わりましたら、必ず端子カバーを取り付けてください。感電の原因となることがあります。



1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。



## 各部の名称と説明 (前面)

マイク1音量調節つまみ

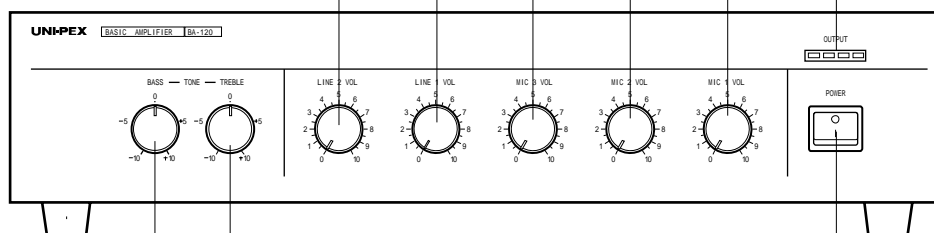
オートマチックフェーダ回路付  
(下記のオートマチックフェーダ回路についての項を参照)

マイク2音量調節つまみ

マイク3音量調節つまみ

ライン1音量調節つまみ

ライン2音量調節つまみ



低音音質調節つまみ

右回りで低音が増強され、左回りで低音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

高音音質調節つまみ

右回りで高音が増強され、左回りで高音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

電源スイッチ

アンプの電源を入/切するスイッチです。電源を入れるときは、下部(1)を押し、電源を切るときには上部(0)を押してください。

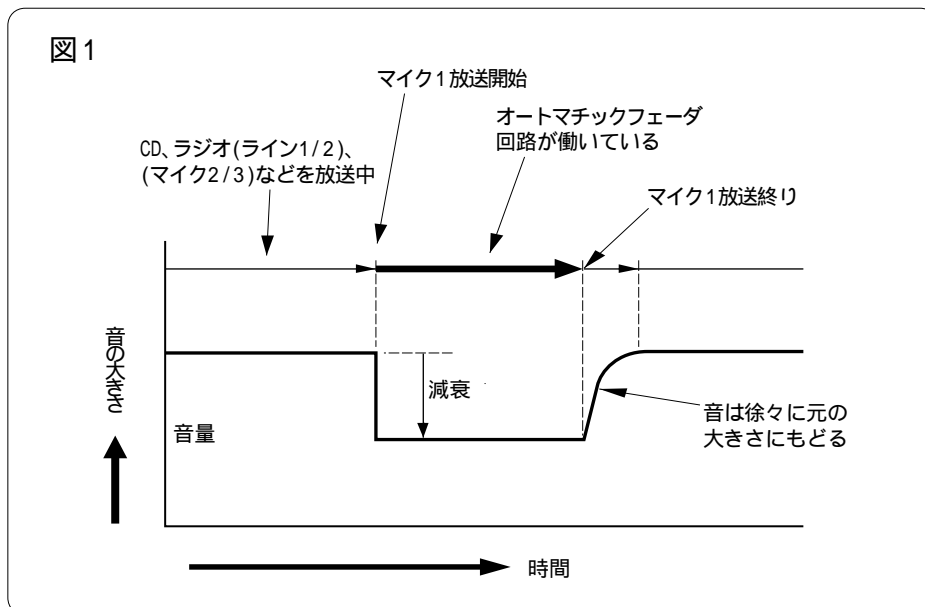
動作表示灯

電源の入切と出力レベルの表示をします。電源を入れると左端の緑色の表示灯のみが点灯します。出力レベルの表示は2個の緑色表示内が適正範囲です。連続して赤色が点灯しないように各音量を調節してください。

## オートマチックフェーダ回路について

マイク1の回路にはオートマチックフェーダ回路がついています。マイク1のマイクで放送するとオートマチックフェーダ回路が働き、マイク2、3、ライン1、2の音量が自動的に減衰し、通常の案内放送などで、いちいち音量をさげる手間が省けて便利です。また、マイク放送が終わると自動的に元の音量にもどります。(図1参照)

オートマチックフェーダ回路の減衰量の変更は販売店または最寄りのユニベックス営業所にご相談ください。



## 各部の名称と説明 (後面)

マイク3入力ジャック  
(-55dBV 600 不平衡)

マイク2入力ジャック  
(-55dBV 600 不平衡)

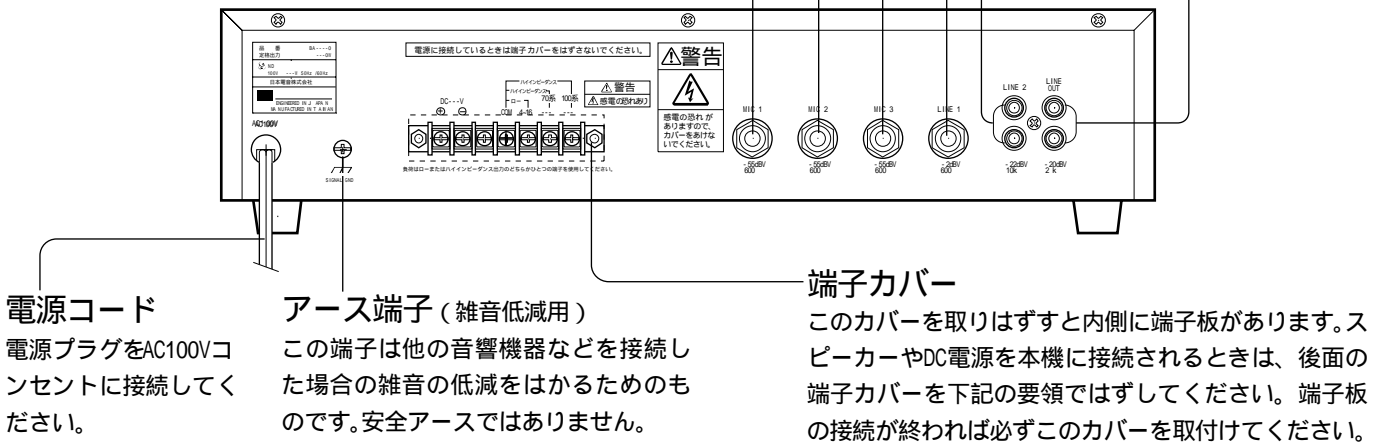
マイク1入力ジャック  
(-55dBV 600 不平衡)

オートマチックフェーダ回路付 (P4の  
オートマチックフェーダ回路について  
の項を参照)

ライン1入力ジャック  
(-2dBV 600 不平衡)

ライン2入力ピンジャック  
(-22dBV 10k 不平衡)  
接続機器のL/Rチャンネルに関係  
なく接続してください。

ライン出力ピンジャック  
(-20dBV 2k 不平衡)  
接続機器のL/Rチャンネルに関係  
なく接続してください。



## 端子カバーのはずし方

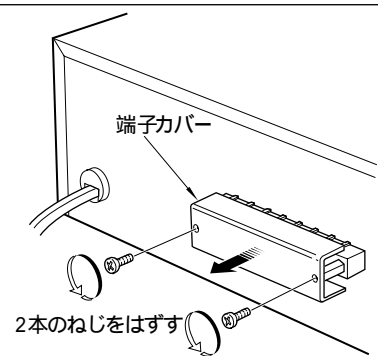
スピーカーやDC電源を本機に接続される場合は、後面の端子カバーをはずしてください。

端子カバー両端のねじ2本をはずし、カバーをはずしてください。各端子の接続後には必ずカバーを元どおり取付けてください。(図2参照)

### 警告

端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

図2



## DC電源でご使用の場合

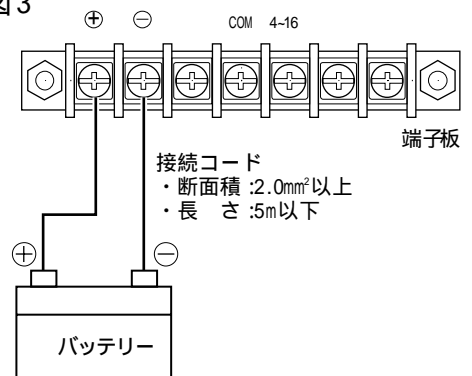
DC電源使用時の定格電圧、定格出力時消費電流は次のとおりです。ご使用アンプの品番をお確かめのうえ、DC電源を接続してください。

品番	定格電圧	定格出力時消費電流
BA-120	24V	8.0A
BA-60	12V	9.5A

DC電源使用時は電源スイッチの入/切に関係なく動作しますので、使用しないときは、必ずDC電源の接続をはずしておいてください。

DC電源接続コードは、断面積2.0mm<sup>2</sup>以上で、コード長さは5m以内のものをご使用ください。又故障の原因となりますので接続するときは、+/-をよく確かめて、ショートしないように充分ご注意ください。(図3参照)

図3



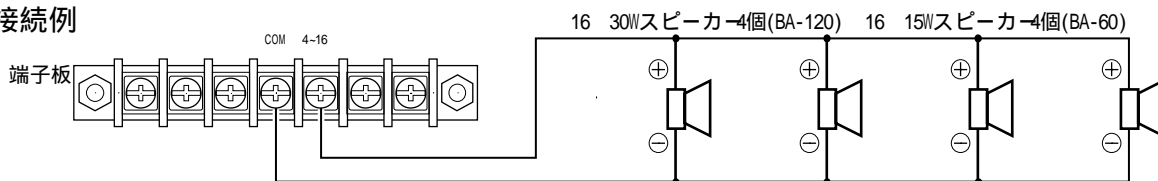
# スピーカーの接続方法

## ローインピーダンススピーカーの接続

接続できるスピーカーは下表のとおりです。

アンプ品番 (定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
BA-120(120W)	4 ~ 16	120W以上
BA-60(60W)		60W以上

図4 接続例



特にご注意ください。ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが 4 以下にならないようにしてください。使用するスピーカーの定格入力、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

## ハイインピーダンススピーカーの接続

接続できるスピーカーは下表のとおりです。

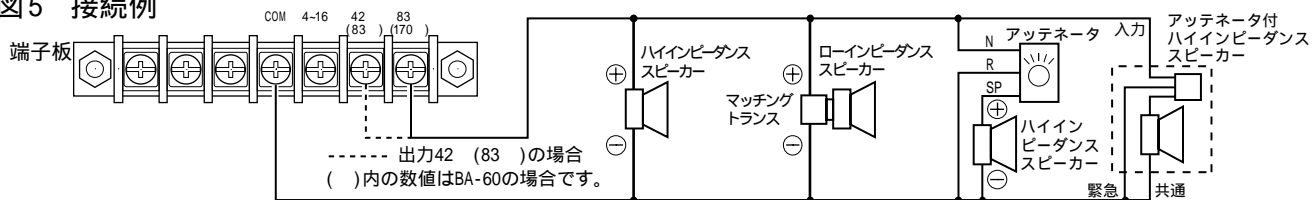
BA-120	出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
	出力 83	83 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が120W以内
	出力 42	42 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が120W以内 1

1 42 端子にハイインピーダンスのスピーカーを接続するとスピーカーに加わる電力は表示電力の半分になります (例. 1k 10W 5Wへ)

BA-60	出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
	出力 170	170 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が60W以内
	出力 83	83 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が60W以内 2

2 83 端子にハイインピーダンスのスピーカーを接続するとスピーカーに加わる電力は表示電力の半分になります (例. 1k 5W 2.5Wへ)

図5 接続例



特にご注意ください。スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。感電に注意！出力端子には、定格出力時に次に示す電圧がかかります。BA-120：約100V(出力83 )/約70V(出力42 )、BA-60：約100V(出力170 )/約70V(出力83 )

## スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

### ローインピーダンス(4~16 )の場合

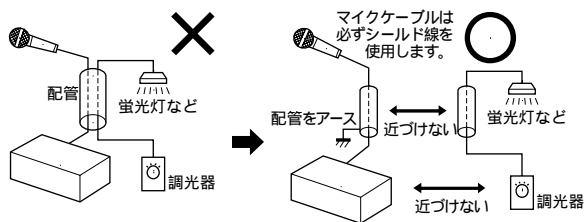
線の太さ	0.9mm	1.0mm	1.2mm	1.6mm	2.0mm	2.6mm
距離	7m	10m	13m	23m	40m	60m

### ハイインピーダンスの場合

	線の太さ	0.9mm	1.0mm	1.2mm	1.6mm	2.0mm	2.6mm
BA-120	42 の場合の延長距離		90m	140m	250m	380m	650m
	83 の場合の延長距離	145m	180m	280m	500m	770m	1.3km
BA-60	170 の場合の延長距離	290m	360m	560m	1km	1.5km	2.6km

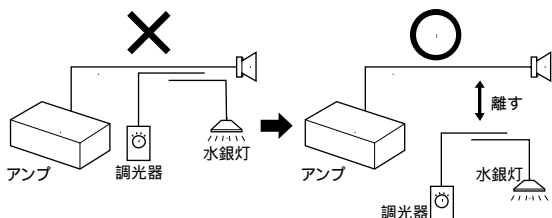
## ノイズ対策について

外来ノイズの影響を受けないために、配線については次のような点にご注意ください。



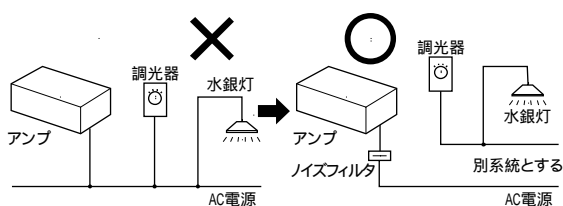
### マイクケーブル等の入力線のノイズ対策

調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



### スピーカー線のノイズ対策

スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



### 電源のとりかた

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルタを入れてください。

## 点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな？と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない。	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
マイクの音声がでてこない。	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイクの音量調節つまみの位置が0位置になっていませんか。	適当な音量にしてください。
スピーカーより音がでない。	端子板に正しくスピーカー線が接続されていますか。	P6のスピーカーの接続方法をごらんになって確認してください。
	スピーカー線がショートしていませんか。	確認してください。
音がわる	動作表示灯の赤色LEDが常時、点灯していませんか。	瞬間的に赤色のLEDが点灯する以外は常に緑色のみの点灯になるように音量を調節してください。
音質がおかしい。	各音質調節(低音、高音)つまみが正しく調節されていますか。	各音質調節(低音、高音)つまみを適切な位置に調節してください。
雑音ができる	スピーカー線やマイクコードなどは他の線と一緒に布線していませんか。	P7のノイズ対策をごらんになってください。
外部接続機器の音がでない。または小さい。	接続機器及び本機の入力音量調節つまみが0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	P5の各部の名称と説明(後面)の各入出力ジャックの説明をごらんください。

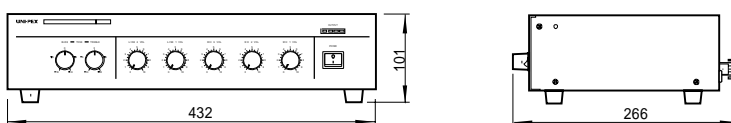
## 警告

上記の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。本機のカバーは絶対に開けないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

## 定格

品番	BA-120	BA-60
使用電源	AC100V 50/60Hz、DC24V	AC100V 50/60Hz、DC12V
定格消費電力	115W(電気用品安全法による測定方法に基づく)	92W(電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC 3.9A / DC8.0A (定格出力時)	AC 2.7A / DC9.5A (定格出力時)
定格出力	120W	60W
出力負荷インピーダンス	83 (ハイインピーダンス 100系) 42 (ハイインピーダンス 70系)	170 (ハイインピーダンス 100系) 83 (ハイインピーダンス 70系)
ライン出力	4 ~ 16 - 20dBV 2k 不平衡	
ひずみ率	1%以下	
周波数特性	50Hz ~ 15kHz 偏差 ± 3dB (定格出力 - 10dB時)	
音質調節	低音:100Hzに於いて ± 10dB (1kHz基準) 調節器付 高音:10kHzに於いて ± 10dB (1kHz基準) 調節器付	
入力感度及びインピーダンス	マイク 1~3: - 55dBV 600 不平衡 各音量調節器付 ライン 1: - 2dBV 600 不平衡 音量調節器付 ライン 2: - 22dBV 10k 不平衡 音量調節器付	
信号対雑音比	60dB以上	
動作表示	電源表示灯: LED (緑)、3ポイントレベルメータ: LED 定格内(緑2) 過出力(赤1)	
使用温度範囲	- 10 ~ + 50	
付帯機能	オートマチックフェーダ回路 (マイク1入力により、マイク 2/3、ライン1/2の信号を減衰)	
外装	パネル(鋼板)マンセル N1 近似色 ブラック 塗装仕上げ ケース(鋼板)マンセル N1 近似色 ブラック 塗装仕上げ	
外形寸法	幅432mm 高さ101mm 奥行266mm	
質量	約8.6kg	約7.5kg
付属品	取扱説明書(保証書兼用) 1	

## 外観寸法図 (単位mm)



## 連絡先のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。販売店に修理を依頼する場合は下記の項目をお確かめください。

品名 品番 お買い上げ日 故障の状況 (できるだけ具体的にお願いします)

ご転居されたり、ご贈呈品などで販売店に修理のご相談ができない場合は最寄りの下記弊社営業所にご相談ください。

札幌営業所	〒064-0811 札幌市中央区南1条西 10-2-17	TEL. (011)511-5505(代) FAX. (011)511-5529
釧路営業所	〒085-0025 釧路市宝町 3-8	TEL. (0154)25-3156(代) FAX. (0154)25-6261
仙台営業所	〒984-0015 仙台市若林区卸町 3-6-11	TEL. (022)232-1295(代) FAX. (022)232-1297
東京営業所	〒110-0008 東京都台東区池之端 2-3-17	TEL. (03)3821-3721(代) FAX. (03)3827-5423
新潟営業所	〒950-0922 新潟市山二ツ 4-6-19	TEL. (025)287-3611(代) FAX. (025)287-3613
金沢営業所	〒920-0362 金沢市古府 1-190	TEL. (076)240-4577(代) FAX. (076)240-6737
静岡営業所	〒422-8037 静岡市下島 152-5	TEL. (054)238-1446(代) FAX. (054)238-1453
名古屋営業所	〒466-0051 名古屋市中区御器所 1-3-29	TEL. (052)871-1671(代) FAX. (052)872-4128
大阪営業所	〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-2-7	TEL. (06)6632-2855(代) FAX. (06)6644-1624
岡山エリア連絡先		TEL. (086)244-2317(代) FAX. (086)244-4461
高松営業所	〒760-0079 高松市松縄町 525-1-203	TEL. (087)868-1181(代) FAX. (087)868-1331
広島営業所	〒730-0016 広島市中区幟町 5-29	TEL. (082)222-5511(代) FAX. (082)222-5513
福岡営業所	〒810-0074 福岡市中央区大手門 3-9-15	TEL. (092)721-5000(代) FAX. (092)721-5089
鹿児島営業所	〒890-0052 鹿児島市上之園町 8-12	TEL. (099)250-0220(代) FAX. (099)257-3327

## ユニペックス株式会社

本社/営業本部 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近 3-6  
お客様相談窓口 (CS課) TEL. (072)855-3334

RKTBA120-H0-3